



ハイライト

- 次世代データセンターは、IT リソースを包括的かつダイナミックに編成し、ワークロードの要求をリアルタイムに感知し、対応します。
 - サービスに重点を置くことで、IT への投資を日々の運用ではなく、ビジネスの成長を推進する改革に向けることができます。
 - エキスパート・システムは次世代データセンターを実現するための最短ルートを提供します。
-

次世代データセンター

ソフトウェア定義環境でサービス最適化を実現

ビジネスと IT の世界はどんどん変化しており、このことが次世代データセンターの必要性を高めています。モバイル、ソーシャル・ビジネス、アナリティクスが生み出す新たなビジネス機会には、人手によるリソース調達では対応できません。高まる一方の可用性、拡張性、スピードに対する要求への即応が求められています。

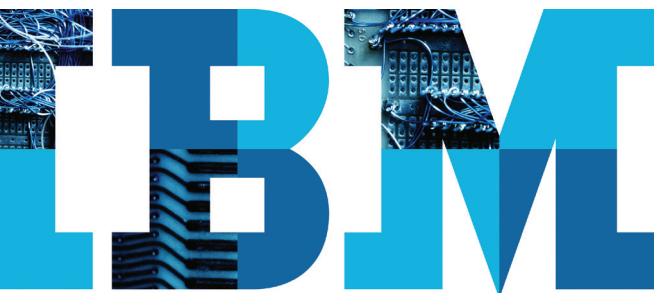
IBM が考える次世代データセンター

次世代データセンターは、これまでにない大きな変化に対応可能です。テクノロジーのサイロ化は解消され、従来型のアーキテクチャーと新しいアーキテクチャーが単一に管理できるひとつのシステム環境として統合されているという、よりシンプルでより適応力のあるインフラストラクチャーを提供します。ソフトウェア定義型環境 (Software Defined Environment: 以下 SDE) では、各ワークロードの要件をリアルタイムに把握し、最適な対応を導き出すソフトウェアによって、サーバー、ストレージ、ネットワーク、設備のリソースが自動的に提供され、構成されます。

手動管理のインフラストラクチャーを、ワークロードを意識した自動化インフラストラクチャーに移行することで、IT のコスト、リスク、サービス品質に大きな効果をもたらします。それにより、IT 部門はシステム保守に費やしていた時間と予算を、ビジネス・ソリューションの変革に向けて活用できるようになります。次世代データセンターで重視されるのは、ハードウェアの最適化ではなく、企業の成長と繁栄をもたらすビジネス・サービスの最適化です。

オープン・スタンダードで構築されている次世代データセンターは、今日の異種混合のインフラストラクチャーとデリバリー・モデルの統合を促進します。そして、レガシー・システムをソフトウェアで定義されたクラウド・ベースの環境に移行することによって、最新のテクノロジーをより簡単に活用できるようになります。

次世代データセンターはひとつの統合化されたインフラストラクチャーとして動作し、物理的インフラストラクチャーと仮想インフラストラクチャーのあらゆる要素が連携した一元的な管理が行われます。次世代



データセンターには、厳密な SLA、アナリティクス、メータリングによってサポートされる、データセンター・インフラストラクチャー管理 (Data Center Infrastructure Management: DCIM) と、IT サービス・マネジメントのベスト・プラクティスを集めたフレームワークである ITIL ベースのサービス・マネジメントが組み込まれています。評価は IT のパフォーマンスだけでなく、顧客満足度や生産性などのビジネス上の成果についても行われます。

次世代データセンターは、複数のサイトにわたってサーバー、ストレージ、ネットワークの仮想化を拡大し、クラスターリング・テクノロジーとデータセンター複製化のテクノロジーを採用することで、継続的可用性 (99.999% のアップタイム) を達成します。また、SDE を拡張してセキュリティーとコンプライアンスに対応し、セキュリティー・リソースの抽象化とプール、保護対策の自動化を実現します。

最後に、次世代データセンターはコグニティブ・システムを使用して、膨大な量のデータを分析的に処理し、パターン認識、異常検知、複雑な判断を瞬時にを行います。コグニティブ・システムは、その適応能力と学習能力によって、科学と産業の課題を解決する重要な存在となっています。

次世代データセンターへ

次世代データセンターへの進化の道筋は、インフラストラクチャーとサービスの変革を、「集約化と統合化」、「最適化と標準化」、「単純化と自動化」、「動的な最適化」の 4 つの段階を経て進められます。企業がこの変革のどの段階にあるかは、その企業の現在のインフラストラクチャーの仮想化と自動化の成熟度によって決まります。

ソフトウェアが定義するサーバー、ストレージ、ネットワークソリューションの登場により、次世代データセンターへの進化に伴う複雑性は軽減されましたが、これらの統合化は不可欠です。このニーズに対応するのが、次世代データセンター実現への最短ルートを提供する、エキスパート・システムです。設計段階から統合化したエキスパート・システムを利用すると、容易にインフラストラクチャーを構成することができます。そして、このようなダイナミックな統合によって、企業は素早くビジネス・チャンスをつかむことができます。

IBM は、旧来のテクノロジーと組織的な困難を排して、次世代データセンターの実現を求めるお客様を、ビジョンと、経験に基づく知見と、豊富なソリューションでご支援します。

詳細情報

詳しくは、IBM 担当員にお問い合わせいただくか、次の Web サイトをご覧ください。 ibm.com/services/jp/ja/it-services.html



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19-21

IBM のホーム・ページは以下の Web サイトをご覧ください。
ibm.com

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、以下をご覧ください。
ibm.com/legal/copytrade.shtml

ITIL は英国 The Minister for the Cabinet Office の登録商標および共同体登録商標であって、米国特許商標庁にて登録されています。

本書の情報は最初の発行日の時点で得られるものであり、予告なしに変更される場合があります。すべての製品が、IBM が営業を行っているすべての国において利用可能なものではありません。

本書の内容は現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証、および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の補償責任または保証条件を負わないものとします。IBM 製品は、IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

© Copyright IBM Corporation 2014



Please Recycle